



部長先生インタビュー

千葉大学大学院医学研究院整形外科学 大鳥 精司教授

千葉大学大学院医学研究院整形外科学 牧 聡助教

—— 同門会員で女性会員数は何名でしょうか？

全女性会員数は 40 名です。昔は 1 学年平均 1 人程度でしたが近年は増加傾向にあります。

—— 貴教室のホームページでは、研修コースが丁寧に示されていますが、産休・育休・介護休暇などで中断せざるを得ない場合も、この研修コースに速やかに戻ることは可能でしょうか？

もちろん可能です。男性、女性医師ともに産休、育休は可能な限り許可しており、産休、育休を経て研修に復帰されている方が多くいます。女性医師では最大 7 年、男性医師では 1 カ月から半年程度を希望され休職されましたが、医局員や関連病院のスタッフ数に恵まれているため、このような場合にも対応が可能となっています。

—— 初期研修期間中メンター制度（指導医が、研修医の相談役を務める）のようなものはありますでしょうか？

初期研修医の先生から研修内容の希望を聞いて反映させたり、キャリアプランなどの進路相談に乗っています。後期研修医になってからも教授との面談の時間を設けたり、関連病院に出た後も、准教授や医局長また研修プログラム担当の大学スタッフがフォローアップを行うようにしています。

—— 専門領域を決めるにあたっては、本人の希望はどの程度考慮されるのでしょうか？

本人の希望が 100% 尊重されます。本人以外から専門領域に関して口出しをされることはありません。

—— 地域的に遠方への赴任も多いのではないかと推測されますが、育児・介護などの家庭的な状況も考慮されるのでしょうか？

大半の関連病院は千葉県内にありますが、県外の研修病院も少数あります。後期研修の間の研修病院の決定はくじ引きで順位を決めていますが、家庭の事情がある場合は同級生内で調整して考慮してもらうようにしています。

—— 専門性を追求するにあたり、短期・中期の国内留学のような研修制度はありますでしょうか？

国内・海外留学は積極的に勧めています。専門性を高めてキャリアアップしたい方には平等に機会がありますので、実際に多くの方が国内・海外留学を経験しています。決まったプログラムはありませんが、国内留学を希望する先生にはご自身で研修先を探していただき、大学院卒業後のタイミングで数ヶ月～1 年程度の期間留学に行ってもらっています。女性医師では専門医と学位を取得し、さらに留学も経験されている方の割合が非常に高いです。

—— **育休・介護休などで、長期休職後の臨床への復帰にあたり、支援体制はつくっておられるのでしょうか？**

休職からの復帰後も整形外科医としてキャリアを積んでいけるよう配慮しています。

復帰にあたっては本人に希望の勤務形態（常勤/非常勤、勤務日数や時間など）を聞いた上で、フレキシブルな勤務体系を提供できるようにしています。幸い、多くの関連病院がありますので、本人の希望と病院側のニーズとマッチングさせることができます。

—— **最後に医学生・研修医の先生・女性医師への応援メッセージをお願いいたします。**

整形外科は女性医師の比率が非常に低い診療科の一つです。私たちは積極的に男女共同参画への取り組んでおります。是非一緒に明るい未来を目指しましょう。